

2019 年度実施概要

学校名

宿毛市立咸陽小学校

採択活動名

自分が好き 友達が好き 故郷（ここ）が好き ～この海を守り継ぐために～

取り組みの概要

本年度から総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しを行い、子ども達の身近にある「海」を中心として単元を構成してきた。

3年生においては、「海に親しむ」をテーマとして、子ども達と海を結び付ける活動を中心に単元を構成していった。学校のすぐ近くにある新港の干潟の生き物調査を通して、身近にある海には山や川と同じようにいろいろな生き物が生息し私たちと共に生きていることを知った。また、専門家を招いて生き物について解説してもらい、生き物に触れる活動を行うことで生き物に関する知識を深め「海」に対して親しみや関心を持たせた。また、ヒラメの放流体験等を行うことで、5年生の社会科の単元にある育てる漁業について目を向けさせた。

4年生では、「海を知る」をテーマに単元を構成した。本校の校区周辺には古くからある「藻津漁港」、平成になって完成した「宿毛新港」、地域の漁業の中心である「片島漁港」、平成になり地域の漁港の水揚げを集約するために出来た「すくも湾漁港」などがある。それぞれの港の特徴や役割を調べる活動を通し比較・整理していくことで、宿毛湾の恵みを中心に人々が港を利用し生活の糧としてきたことを子ども達と共に学習した。また、学校近くの遍路道に、海の学びを「遍路札」として掛けていくことで情報発信を行うことに繋がった。

宿毛湾は県内でも有数の養殖業が盛んな地域である。そこで、5年生では「海を利用する」をテーマに単元を作ってきた。漁業普及指導員を講師として招きいろいろな漁法、餌や魚の種類、出荷方法等に目を向けさせた。中でも宿毛湾で盛んな養殖業を中心に捕って終わりの漁業から育てる漁業の重要性を認識させた。また、地域の漁協の婦人会と連携し、養殖した魚を解体したり食べたりする体験を行い、海の利用によって生活が豊かになっていることを実感させた。子ども達の保護者には養殖業や定置網漁に従事している人もいるため、彼らを講師として招きながら活動を進めていく中で、社会科との関連を図り国内の水産物の漁獲高にも目を向けさせ、日本の漁業が置かれている現状についても考えさせた。

6年生では、これまでの学年のまとめとして「海を守る」をテーマに活動を行った。沿岸に打ち上げられているゴミ問題等を探究していく中で、海は誰かが守ってくれるものではなく海を守るのは自分自身であるということ意識づけてきた。また、浜辺の清掃活動を通して、海に打ち上げられたゴミは自分達の生活と密接に関連していることを学んだ。専門家を招き説明を受けることで、現在の海洋問題であるマイクロプラスチックについて学習を深めた。食物連鎖の頂点に立つ人間にはどのような行動が求められるのかを考える機会となった。

